

“ 大空に夢を馳せて ”

千葉県支部第 11 回見学会「成田国際空港」報告

2013 年 11 月 7 日 (木)

見学会当日、成田空港第 2 ビル駅に集合したのは一般参加者を含め総勢 22 名であった。島瀬支部長の歓迎挨拶の後、今回の見学会を企画して頂いた齋藤尚樹氏 (51L) の案内で成田国際空港株式会社 (NAA) を訪問した。

まず、NAA の広報室にて、NAA 社員から空港の開港時から現在までの歩みを各種データを交えた話の後、現在の国際線・国内線の運用状況、スカイアクセスの完成やターミナル内商店街の充実等による利便性や顧客サービスの向上、空港周辺地域との交流・共生活動として地域と協力して各種行事を開催していること、空港外縁に緑化公園を整備して温暖化防止・環境対策に取り組んでいること等、更に、昨今の空港の国際競争の激化の中で東アジアの中枢空港の座を争う近隣国の国際空港との比較や NAA が競争に負けずに生き残り発展してゆくために力を入れている施策の紹介を受ける。

直近の話として 2014 年度末までに、発着容量が年 30 万回になることに向けて、更なる利便性・顧客サービス向上、LCC 導入や国内線増強による国際線と国内線の乗り継ぎ利便性向上、ビジネスジェット受入等に鋭意取り組んでいるとの力強い話があった。

その後、ランプコントロールタワーへ移動し専用エレベータで空港全域が見渡せる旧ランプ管制室へ入り、広大な空港と周辺地域の素晴らしい眺望を楽しみながら空港内諸施設概要や周辺地域の説明を受ける。成田空港は発着滑走路と誘導路は管制塔から、エプロン内はランプコントロールタワーからと、世界で唯一 2 つの管制システムを持つ空港とのこと。



ランプコントロールタワーを降り、貸し切りバスに乗り、厳重な入出場管理をしている税関ゲートを通して入場制限地域へ入る。NAA 社員の歯切れの良い説明を受けながらバスを走らせ、車窓より、まず、エプロンの貨物ターミナルを見る。巨大な倉庫の前に貨物用ジャンボがずらりと並んで荷積み・荷卸しをしている様は壮観である。



更に奥へ入り、4000m A滑走路の外周道路を周り、滑走路からターミナルビル全体を見渡す。途中、滑走路の中央付近で下車、滑走路着陸帯の外より轟音と共に次々に発着するジャンボ機やエアバス機を間近で見てその迫力を肌で感じ、写真を撮りながら次々に歓声上がる。

周辺に配置された燃料タンク施設や最新の気象レーダーと監視レーダーや離着陸用航空保安無線設備を見る。有視界 100mあれば着陸可能な世界最新鋭の誘導設備である由。その後、JAL、ANAの巨大な整備工場（ハンガー）前を通る。当日は扉が閉まっていた中を覗くことが出来なかったのは残念であった。



制限区域を出てバスを降り、フライトインフォメーション施設（F I S）を見に行く。F I S担当の齊藤元久氏（52 L）の案内で、先ず、第2ターミナルの4階搭乗手続きエリアに行き、改装されたF I Sの説明を受ける。

その後、地下1階にある部外者入室禁止のF I Sオペレーションルームへ入り、F I Sの運用方法の説明やF I Sの更新の歴史、1代目より2代目、2代目より3代目への制御設備の小型化、高性能化やシステム更新時の苦労話を聞く。

今も2代目から3代目への移行中で両システムが並行して運用されているとのこと。



F I Sを出て島瀬支部長の閉めの挨拶で見学会を無事終了した。

非常に充実した見学会で遠路はるばる参加頂いた一般参加者にも充分に楽しんで頂けたと思われる。

懇親会

見学会終了後、一般参加者と別れ、成田市内へ移動し、成田参道にある「鰻福亭」にて同窓生懇親会を行った。今年卒業の下山陽宏氏（N A A社員）も参加し、見学会の感想や参加者全員の簡単な自己紹介やらと、大いに盛り上がり、和気藹藹と会話も弾む中制限時間を迎え、最後に「関東八州」、啓真寮歌「星は移りて」を歌い、更に、齊藤元久氏による前橋の養心寮歌の披露まで出て大盛会の閉会となった。



今回の見学会の実現・懇親会の手配に多大な尽力を頂いた齋藤尚樹氏（51L）に感謝し報告を終えます。

以上、
久保田 昇（40E）